

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	English C		
英文授業科目名	English C		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	量子・物質工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	深澤 はるか(学内連絡教官 奥 浩昭)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>「自分で考え、自らの考えを明確に言語化し、発表する」能力は、最先端の科学技術を学ぶ者にとって必要不可欠である。本授業は、そのための基礎力養成として、英文雑誌や新聞の記事(特に科学技術的な)を読みこなす力を身につけることを目標とする。わからない単語を調べ逐語訳をする、という英語講読の授業ではなく、限られた時間で的確に内容を把握する、という練習を中心に行う。また、それぞれの内容に関して自分の意見を英語で論理的に述べる、という練習も行う。読み、書き、に重点は置くが、話す、聴くというスキルも合わせ、総合的な英語の基礎力向上を目指す。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし。

<b>【教科書等】</b>
教科書：(1) Views for Tomorrow 2004/2005 (新時事英語へのニューアプローチ 2004 / 2005) By Akiko Miyama (深山晶子) Sanshusha(三修社) (2) 配布教材

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

(1) 読む：教科書の内容に照らして、社会、国際、文化、科学技術、医療、経済、環境などに関するニュースの記事を毎授業、1つずつ読む。随時、教科書に加え他の教材も取り入れる。限られた時間で以下の様に内容を把握するか、という読み方の習得を目指す。(2) 書く：毎回、読んだ内容に関して、自分の意見を論理的に書く書き方の練習を行う。(3) 1-minute-reading : listeningの力をつけるための音読の練習を行う。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

成績評価方法：2回の定期試験、提出課題、授業参加度をもとに総合的に成績を評価する。毎回の授業は次の授業への土台となるため、授業参加度の成績評価を得るためには、全授業出席が原則となる。成績は以下の配分で決定される。中間試験：20% 期末試験：30% 提出課題：20% 授業参加度：30% 評価基準：(1) 各記事の重要事項を与えられた時間の中で把握できるか。(2) テーマに即して自分の意見を論理的に作文することができるか。

### 【オフィスアワー：授業相談】

質問等は電子メールで受け付ける。

### 【学生へのメッセージ】

このシラバスに加え、第一回目の授業で、さらに詳しい授業計画を配布、説明するので、必ず出席すること。

### 【その他】